

新春懇談会

明けましておめでとございませう。今年には子供たち一人ひとりに、人生で「君の椅子」プレゼントが東川で生まれて5年目の年を迎えます。取り組みは、木工の町・東川を代表するプロジェクトとして、町内の家具業界に「キッズコレクション」という新たな取り組みも生まれました。「君の椅子」プロジェクトが生んだ新たな流れは、これからどう発展するのでしょうか。歴代製作者に一堂に集まってもらい夢を語ってもらいました。



聞き手・総合進行/町長 松岡市郎

町長 ちよつと聞いてみたいなのがあるんです。大門巖さん以外、人生のスタートに木工を志していないですね。そもそもなぜ職業として木工を選び、どうして東川を選んだのか、とね。

大門 独立する前に勤めていた会社が東川で、その会社にパート勤めで来ていた方から借りていた場所が今いる所なんです。その方が本州の息子さんの所に引越すというので譲っていただいて。

向坊 最初は脱サラだったんで

（大門）和真 専門学校で歯科技工士の勉強をしているところから、家具とかものづくりをしてみたい、という思いはあったんです。きつかけがあつて、父のところまで働くことになりました。自然に囲まれた良い環境でのびのびと仕事もできるし、子供も良い環境で育てることができ

宮地 大学時代、最初の夏休み

で北海道に来て、休みのたびに北海道に通っていたんです。学生がたくさん本州から来ているので仲間ができる。仲間に会うために何度も通っているうち「北海道に住みたい」と思うようになりまし

に行つて。

そのころ、織田先生（織田憲嗣氏）東海大旭川キャンパス暮らしデザイン学科教授が高山にチェアーズ・ギャラリーを造りたい、としようちゆう言っていたんです。講演もよくあつたので、椅子に魅入られていったんです。それで椅子を作るようになりまし

の注文家具屋さん。そこは一品

もの製作ばかりでした。そこが長いんです。東川の会社に移つた時は、量産でした。そこで特注で一品作業と、量産の流れ作業と両方の仕事を身につけたんです。

いて、じいちゃんもそうですが、彫りものをしたり、かんなを使つたりという仕事に携わっている人がまわりに近かつた。ですから、以前からなんとなくやりたかつたというか、馴染みがあつて…。

わつていますね。

大門 最初勤めたのが旭川市内

和真 小さい時に遊んでいたおもちや、テーブル、家具、キャビネットとか、父が作ったものが自然とあつて、それに触れて

町長 家具を作るわけですよ。家具といつても、椅子からテーブルからいろいろなものがあります。しかし皆さん椅子にこだ

向坊 最初は高山で漆塗りの和風キャビネットを作っていたんです。ここ20年くらいの間に椅子の注文が多くなり、自然と椅子に流れてきた。自分で使いた

第1回・第4回製作者

大門 巖さん (56歳)
「アートクラフト・パウ工房」代表。旭川工芸デザイン協会会員。留萌管内秩父別町出身。道立旭川高等職業訓練校木工学科卒。1988(昭和63)年、東川町にパウ工房開設。第21回技能五輪国際大会第3位(1973(同43)年、西ドイツ(当時)ミュンヘン)、北国の手作り大賞・大賞受賞(1986(同61)年)など入選多数。「1㎡ GLEICH max展」<ウッドスプリングチェア>招待出品(2004)、ドイツ・MART A美術館(ヘルホルト市)のパーマネントコレクションとなる。第1回「君の椅子」作品が北海道立旭川美術館に収蔵。



第2回製作者

宮地 鎮雄さん (49歳)
「工房 宮地」代表。旭川高等技術専門学院時間講師、旭川家具協同組合組合員。愛知県日間島出身。東京工芸大学工学部写真工学科卒。道立旭川職業訓練校木工科卒。俣匠工芸(東神楽町)を経て1991(平成3)年、「工房 宮地」開設。(社)日本クラフトデザイン協会主催の「日本クラフト展」入選(1993(同5)年)など入選多数。パーキンソン病で闘病中だった作家・故三浦綾子さんの椅子を製作(1995(同7)年)。パーキンソン病患者用椅子の製作を開始、通産省グッドデザイン賞(1997(同9)年)。第2回「君の椅子」作品が北海道立旭川美術館に収蔵。



第3回製作者

向坊 明さん (55歳)
「むう工房」代表。旭川工房家具の会会長、旭川工芸デザイン協会、地域資源∞全国展開プロジェクト旭川クラフト協議会所属。福岡市北九州市出身。早稲田大学法学部卒業。飛騨国際工芸学園木工科卒業。1992(平成4)年、むう工房開設。「北の生活産業デザインコンペ」大賞、グッドデザイン賞(ともに1999(平成11)年)など入選多数。東京新宿リビンデザインセンター「OZONE工房家具ギャラリー」の社に常設展示。第3回「君の椅子」作品が道立旭川美術館に収蔵。



第4回製作者

大門 和真さん (30歳)
旭川市出身。旭川歯科学院専門学校卒(2000(平成14)年)。札幌市内で歯科技工士勤務を経て、2004(同16)年帰郷。パウ工房入社。2006(同18)、2007(同19)年、朝日現代クラフト展入選。旭川市と周辺町で活動する若手アーティストユニット・ミクル(事務局・北嶺工匠(旭川))のグループ展に参加。

